

No.	大項目	中項目	小項目	取り決め事項
1	PSC設定の前提	製品	定義	レンズ付フィルム
2			範囲	最小販売単位(個包装と個装箱)に含まれる本体と包装一式 ただし、現像付属品やストラップ等は除く。
3		ステージ	範囲	全ステージを対象とする。 ただし、現像・プリント工程は範囲外とするが、フィルムの内装と外装の廃棄・リサイクルは含める。
4	製品データシート(LCI入力データ)	製造ステージ情報(製品情報)	製品材料 または 原料構成	<p>【部品等Aの対象】(部品等Aの定義は、実施ガイドライン“3.4項”参照) 撮影レンズ、ファインダーレンズ、フィルム(内装、外装を除く感光材料)</p> <p>【製品材料分類】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・感光材料 : セルロースアセテート(APSはポリエチレンナフタレート)、ゼラチン、ハロゲン化銀(計上するのは銀のみ) ・金属 : 鉄、ステンレス、アルミニウム ・プラスチック: 材質別 ・紙 ・電池 ・ストロボ <p>【オープンリサイクル/リユース】 オープンリサイクル/リユースを含む場合は次の項目に注意して各社で妥当と判断されるシナリオを設定して計上できる。なお設定根拠の妥当性は検証の対象となる。 (1) 「間接影響」範囲とする工程 (2) 「間接影響」範囲内の控除・負荷</p>
5		製造ステージ情報(製造サイト情報)	投入・消費・排出される物質とエネルギー	<p>【製造ステージの範囲】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・感光材料製造工程(支持体・硝酸銀製造、仕込・溶解・塗布) ・パッケージング工程(フィルム裁断・穿孔・巻込) ・本体製造工程(レンズ成形、本体組立・フィルム巻込・包装) <p>【投入・消費項目】 電力、A重油、軽油、灯油、ガソリン、LNG(都市ガス)、LPG、都市用水、工業用水、地下水、VOC</p> <p>【排出項目】 VOC及び各社で重要と判断したものを記載する。</p> <p>【その他】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資源投入は、製品1台当たりの投入量とする ・複数のサイトに跨る場合には、そのサイト間の物流については実績値を用いる。
6		物流ステージ情報	製品の輸送条件	<p>最終工程国内: 平均輸送距離500km、輸送手段はトラックとして、各社モデルをたてる。 最終工程海外: 国内までの輸送モデルを各社でたて、上記に加える。</p> <p>海外輸送負荷として、海外生産地の国内輸送と日本までの海外輸送を計上し、国内輸送負荷に加算する。その輸送条件は各社の実態で設定できるが、設定根拠を明確にすること。</p>
7	使用ステージ情報	製品の使用条件	<p>包装材料の廃棄のみを対象とする。 容器包装リサイクル法で定められた最新の再商品化の条件を採用する。</p> <p>容り法リサイクル量 = 容器包装排出見込み量 × 算定係数 * 処理負荷と控除量はともにゼロとする。</p> <p>容り法に基づき再商品化されなかった部分の処理は、一廃焼却とする。</p>	

No.	大項目	中項目	小項目	取り決め事項
8	製品データシート(LCI入力データ)	廃棄・リサイクルステータス情報	製品の廃棄・リサイクル条件	<p>【リユース・リサイクル負荷、および、控除量の算出方法】 対象となる部品それぞれに対して *リユース 控除量 = リユース可能量 × 回収率 × 良品率(歩留まり) 回収率 = 回収量 / 国内出荷量(業界値を用いる)</p> <p>取扱いの前提は一般廃棄物扱いとし、負荷は、処理時に発生する負荷を実績、もしくは、設定条件にもとづき計上する。処理負荷を計上しない場合は、処理負荷、控除量ともにゼロとする。</p> <p>*リサイクル 1. 控除量 = リサイクル材発生量 × 用途別の使用率 この中で、 リサイクル材発生量 = リサイクル可能量 × 回収率 × リサイクル率(歩留まり) とする。 負荷は、処理時に発生する負荷を実績、もしくは、設定条件にもとづき計上する。処理負荷を計上しない場合は、処理負荷、控除量ともにゼロとする。</p> <p>2. オープンリサイクル/リユース オープンリサイクル/リユースを含む場合は次の項目に注意して各社で妥当と判断されるシナリオを設定して計上できる。なお設定根拠の妥当性は検証の対象となる。 (1) 「間接影響」範囲とする工程 (2) 「間接影響」範囲内の控除・負荷</p> <p>【市場からの未回収ボディの扱い】 処理負荷、控除量ともにゼロとする。</p> <p>【回収品輸送】 ・回収品輸送は平均輸送距離500km、輸送手段はトラックとして、各社モデルをたてる。 ・回収品受入拠点が海外の場合は、海外までの輸送モデルを各社でたて、上記に加える。</p> <p>【工程間輸送】 ・複数のサイトに跨る場合には、そのサイト間の物流については実績値を用いる。</p>
9	製品環境情報データシート(PEIDS)	インベントリ分析	LCI計算式	オープンリサイクル/リユースを含む場合は間接影響と直接影響に分離して計算し、このうち間接影響分を「リサイクル効果」として表現する。PEIDSでは間接影響の合計を「リサイクル効果」欄に記載し、リサイクル効果の内訳をPEIDSの解説欄に記載する。
10		インパクト評価	カテゴリ追加	「光化学オキシダント」の項目を追加する。 「オゾン層破壊」と「富栄養化」の項目を削除する。
11	内訳データシート(製品データシート関連)	データ加工	アロケーション	統一せず、各社で適宜決定する。
12		データ収集	収集範囲	空調・照明等のユーティリティを含む直接製品製造にかかわる部分を対象とする。 データを把握出来ない場合は、設計時又は計画時の条件を含むデータ(含む原単位)で代用しても良い。 複数の生産工場がある場合は代表工場でも可とする
13			カットオフルール	フィルム製造における添加剤 製造ロス 副資材 原料の製造サイトまでの輸送 同一サイト内の輸送 * 副資材: 製造サイトで投入廃棄されるもので製品とともに出荷されない資材を副資材と定義する。
14	内訳データシート(PEIDS関連)	データベース	原単位データへの選定	1. 「アセチルセルロース」や「ポリエチレンナフタレート」の製造は、原単位「PET」を採用 2. 「VOC」の製造は、原単位「メタノール」を採用 3. 「ハロゲン化銀」の製造は、原単位「銀」を採用 4. 「ストロボ」の製造は、原単位「実装回路基板」を採用 5. 「ゼラチン」の製造は、原単位「スチレンブタジエンゴム」を採用 なお、上記原単位名は、「原単位リスト」参照
15			原単位データへの追加	銀(共通原単位へ追加済)
16			特性化係数の追加	「光化学オキシダント」の項目を追加(共通特性化係数に追加済)

No.	大項目	中項目	小項目	取り決め事項
17	製品環境情報	製品仕様		主機能:フォーマット(135またはAPS)、ストロボの有無、撮影枚数、フィルム感度 副機能:防水、オートデート、接写、望遠、自動調光 等
18		データ公開内容		ガイドラインに従う。 オープンリサイクル/リユースを含む場合は ・「リサイクル効果」は実際に発生した負荷とは統合せずに、 独立してステージ毎に点線で表示する。 ・リサイクル効果の内訳は欄外に記載する。
19	その他環境関連情報	選択記載項目		下記のことを記載できる。 タイプ 及び/又はタイプ の環境ラベル ISO14001認証の取得 国または工業会等の認証・認定・表彰 有害物質